

「はまとんべつ 再考&最高」

校長 榆 木 伸 司

私が浜頓別に着任して、気が付けば早 3 年が経とうとしています。私のように転勤によって外から来た者から見れば、この浜頓別エリアには数多くの良さがあると感じています。

クッチャロ湖に沈む夕日、満天の星空、エサヌカ線から望む広野と珠文岳、ウソタンナイ川での砂金堀り、ぶんちゃんの里での酪農体験、町最大イベントの北オホーツク 100km マラソン、更に魚釣りやホタテ剥き体験、オオワシ観察、ピンネシリ登山など、この地でしか味わえない感動や学びを生徒や地域の方々と一緒になって体験し、かけがえのない財産を得ることができました。まさに感謝の一言です。先生方とも生徒支援や間口減に関する話題で、意見を交わしあい、時には助言を加えることを通して、私自身は校長として、先生方は資質能力向上の一助として、お互いを高め合うことができたと思っています。

極めて希で貴重な教育資源（クッチャロ湖、浜頓別の遺跡群やオホーツクミュージアム、酪農体験、白鳥やオオワシの観察、中頓別鍾乳洞探検 等）が溢れているこの地で学ぶことができる君たちも、もっとふるさとであるこの南宗谷（猿払、浜頓別、中頓別、枝幸）の特徴を理解し、是非この地を誇りに思っていて欲しいのです。今、改めて「はまとんべつ」の良さを見つめ直すとともに、自分がこれまで育った月日を思い返してみましよう。

私は「はまとんべつ」を理由に「できないと言って、やらない」のではなく、「どうやったらできるようになるか」「少しでも良くするにはどうしたらいいのか」を考え、実行に移してみることにエネルギーを注いでみて欲しいのです。「はまとんべつ」を再考することこそが、実は「はまとんべつ」を最高にしていくための必要な要素だと信じています。

3 年生諸君へ、この学舎で過ごした 3 年間には意味があり、今の君たちはこれまで数多くの体験を通じて、形づくられています。今後は社会に出て大切な人やものを守るために、物事に誠実に取り組むこと、自分を育んだふるさとを思う心も失わずに、チャレンジする勇気を持つことを大事にして欲しいのです。I love 浜高 Let's begin 私が言い続けてきた言葉です。今後も良かったと思えること、悪かったと反省することが入り交じりながらの人生でしょう。でも困った時こそ、この地で育ったこれまでを思い出してみてください。ふるさとの思い出は、人をつなぐ。このことを胸に、自信を持って前へと進もう。